

前事不忘後事之師(過去を忘れず未来に活かそう) 戦争・平和・難民 & 愛と償いの絵画展



魯迅美術学院 王希奇教授 「一九四六」神戸展

胸に迫る感動の大作！縦3m×横20m

開催日時 2022年8月31日(水)～9月4日(日) 10:00～18:00(入場は17:30まで) ※最終日は15:00閉場 **会場** 兵庫県立原田の森ギャラリー

主催者ご挨拶

私はこのたび、王希奇先生の絵画の神戸展の実行委員会代表を務めさせていただきます安齋育郎と申します。どうぞ宜しくお願いします。

私が終身名誉館長を務める立命館大学国際平和ミュージアムは、世界の大学に先駆けて、1992年に総合的な平和博物館を開設しました。立命館大学も戦時には約3000人の学生を戦場に送り、1000人近い学生の命を失っています。戦後、立命館大学は戦時の教学のあり方を深く反省し、「平和と民主主義」を教学理念として採用しました。国際平和ミュージアムは現在はリニューアル休館中で、お招きすることは叶いませんが、2023年9月にリニューアル開館の折には、機会を見てご訪問を歓迎いたしたく存じます。

国際平和ミュージアムは、太平洋戦争のもとで全土が戦場となった日本が受けた「被害」の側面だけでなく、それに先立つアジア・太平洋諸国に対する「加害」の歴史も取り上げております。侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館（南京虐殺記念館）とは協力協定を締結しています。私は2018年～2020年、「平和のための博物館国際ネットワーク」（International Network of Museums for Peace）のGeneral Coordinatorを務め、2020年9月には成功裏に、第10回国際平和博物館会議をオンラインで開催しました。同時に開催した「マンガ・パンデミックWeb展」には、中国の漫画愛好家から多数の応募をいただきました。文化は国境を超えるひとつの例でもありました。

王希奇(ワンシーチー)先生の作品が日本各地で展覧され、多くの日本人が（若い人たちも含めて）戦争の悲惨さ、非情さ、非人間性を理解する助けとなることは、何と有難いことでしょう。展覧会の機会を与えて頂いたことを、深く感謝申し上げます。神戸展実行委員会代表として心より御礼申し上げます。新型コロナ・ウイルス感染症は、世界的に新たな感染流行の様相を呈しています。皆様十分ご自愛の上、ご健勝にてお過ごし下さい。

2022年8月

安齋育郎

（立命館大学名誉教授、立命館大学国際平和ミュージアム終身名誉館長）

神戸展ロゴマークには、日中国交正常化50周年を超え「人類運命共同体」の一員として、お互いに隣国を敬おうとの思いを込めました。「日中敬隣」と"Love & Peace & Humanism"は神戸絵画展のスローガンです。



「一九四六」神戸展に寄せて

私は、中華人民共和国遼寧省魯迅美術学院の王希奇(ワンシーチー)と申します。「一九四六」神戸展が開催されます事を、心より御礼申し上げます。また神戸展を企画・開催された、安齋育郎博士を初めとする神戸展実行委員会の皆様や、関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

さて、本年(2022年)は中日国交正常化50周年の節目の年です。この記念すべき年柄に、「一九四六」神戸展が開催されます事を光栄に存じます。

私は11年前に偶然にも、「遺骨を抱いた男装の少女」の写真に惹かれ、「一九四六」を構想し創作し始めました。あの戦争で、加害者と被害者という異なる二つの境遇を、一身に強いられた日本人について考えました。敗戦直後の引揚げの歴史的事実を、縦3m横20mの絵画「一九四六」シリーズで描きました。戦争の悲惨さと平和の大切さ、命の尊さを伝えようと思ったからです。そして遂に5年間半の歳月を掛け、2016年に完成させる事ができました。

2017年9月28日より、東京美術倶楽部で初回の展覧会を開催し、その後舞鶴展・宮城展・高知展に続き、今回の神戸展を迎える事ができました。これもひとえに多くの有識者、友人の皆様のご支援とご尽力の賜物です。

「一九四六」は歩きながら鑑賞してみてください。歴史の重みを追体験して頂きたいと思います。絵の前に足を止め、人間性の輝きと平和の尊さ、更には芸術の力を感じ取って頂きましたら、画家として何よりの喜びです。また、「一九四六」神戸展では映画監督の山田洋次様を初めとして、100名を超える「特別サポーター」の皆様のご賛同を賜りました。感謝の気持ちで一杯です。草の根の民間交流を通して、私の作品が中日不再戦・恒久的中日友好や国際平和へと繋がり、更には芸術の持つ力の大きさを、ご来館の皆様にお伝えする事ができれば幸甚に存じます。

2022年8月

魯迅美術学院教授 王希奇(ワンシーチー)

【王希奇教授の略歴】

歴史絵画家。1960年中国錦州市生まれ。魯迅美術学院教授。中国美術家協会会員。

東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価される。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評される。なかでも、国家金メダルを獲得した《三国志・赤壁の戦い》（合作）、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品《長征》、《遼瀋戦役 攻克錦州》（合作）および《官渡の戦》などの大型絵画が代表作である。油絵のほか、墨絵の《回声》、《高原人》、《聴雷》などの作品も全国美術作品展に入選。数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されている。近年では、2012年から2017年にかけて、葫蘆島港より105万人余の残留日本人の大送還をテーマとした大作《一九四六》（縦3m×横20m）をはじめ、関連するシリーズ作品計50点を制作した。

主催:「一九四六」神戸展実行委員会

特別協力:学校法人城西大学

特別サポーター:山田洋次(映画監督) 加藤登紀子(歌手) 他50名以上
→詳細は神戸展HPをご覧ください。

後援:【中国】中華人民共和国駐大阪総領事館、天津市对外友好協会、遼寧省中日友好協会、魯迅美術学院、東北大学芸術学院 【日本】兵庫県、大阪府、京都府、神戸市、神戸市教育委員会、日本中国友好協会、立命館大学国際平和ミュージアム、立命館孔子学院

ご寄付のお願い

大学院生以下無料のためご支援をお願いします。
(税的優遇措置なし)

寄付口座名:「一九四六」神戸展実行委員会

寄付口座番号:池田泉州銀行 逆瀬川(サカセガワ)支店
普通148583